○ 陸の便は、対馬交通（株）の乗合及び貸切バス 49 台、対馬市営バス 5 台。バス路線延長は、国道 382 号を動脈に 405ｋｍ。
○ 海の便は、フェリー3 隻及びジェットフォイル 2 隻が、対馬と博多・壱岐を結ぶ。
○ 空の便は、対馬～福岡間ジェット機 2 便及びプロペラ機 2 便／日、対馬～長崎間にプロペラ機 4 便／日（金日 5 便／日）が就航している。
○ 島内で消費される電力 165,797 千キロワット時（平成 26 年度）は、3 ヶ所の発電所から供給されている。
○ 対馬市では、ＣＡＴＶ事業により各家庭を光ファイバーケーブルで接続したネットワークが形成されている。

第 1 節　運輸

1．バス

昭和 3 年 10 月 1 日、対馬交通株式会社が設立され、厳原、鶏知間の路線をバスが走ることとなった。昭和 45 年 6 月 1 日に、上県町、上対馬町管内を主な路線としていた北対馬自動車株式会社を吸収合併、今日に至っている。平成 27 年 12 月現在、路線の総延長 272.2ｋｍ、バス 49 台（うち乗合 39 台、貸切 10 台）を有する、島内の重要な定期陸上交通機関である。このほか、市営バスを平成 20 年度から、路線の総延長 103.9ｋｍをバス 5 台（うち 3 台はスクールバスを使用）で運行している。平成 23 年度から乗合タクシーを対馬タクシー協会に委託し、総延長 28.9ｋｍを運行している。

対馬の地形から、沿岸航路に頼らざるを得なかった時代もあったが、縦貫線等道路の整備が進むにつれて、バス路線はしだいに広がっていった。しかし人口の減少、自家用自動車の普及にともない、路線のほとんどが赤字をかかえているため、今後の路線維持が問題となっている。

2．航空機

昭和 50 年 10 月 10 日、対馬空港が開港し、対馬～福岡間に YS11 型機

が就航した。また、昭和51年8月3日には、対馬～長崎間に同じくYS11型機が就航した。

平成10年4月1日から、航空機はすべてジェット化された（B737-500,200）が、平成15年9月1日から、長崎便がオリエンタルエアブリッジ（ＯＲＣ）による運行となり、全便プロペラ機となった。平成17年10月1日から福岡便がジェット、プロペラ混在6便となったが、平成19年11月1日よりジェット4便へ移行。その後、平成26年3月30日にジェット2便、プロペラ2便に移行した。平成27年4月現在、対馬～福岡間に4便／日、対馬～長崎間に4便／日（金日5便／日）が就航している。

また、平成8年7月20日から平成10年8月31日まで（途中運休期間を含む）、対馬～大阪間の定期便が開設されていたが、利用率の伸び悩みにより廃止された。

第10-1表　対馬空港利用状況（国内）

年	利用者数(人)			搭乗率(%)		就航率(%)		貨物(kg)		
(暦年)	計	福岡線	長崎線	福岡線	長崎線	福岡線	長崎線	計	積荷	卸荷
平成17	315,587	236,639	78,948	60.0	66.4	97.6	97.5	596,259	230,712	365,547
18	296,977	222,430	74,547	53.7	63.0	94.4	96.7	558,092	231,839	326,253
19	291,028	217,930	73,098	53.2	61.8	96.2	98.6	557,590	255,268	302,322
20	277,637	204,351	73,286	55.3	61.2	98.3	98.6	594,511	304,158	290,353
21	273,071	201,637	71,434	55.5	61.0	97.0	97.6	621,566	337,087	284,479
22	260,752	192,329	68,423	53.0	64.1	96.9	96.6	499,761	239,144	260,617
23	256,814	189,475	67,339	52.0	61.9	97.2	96.5	454,795	224,996	229,799
24	253,992	184,292	69,700	50.0	59.6	97.8	97.0	392,365	165,492	226,873
25	255,486	185,552	69,934	50.9	60.5	97.8	97.9	389,106	162,153	226,953
26	261,169	191,207	69,962	62.8	62.0	97.3	94.1	354,566	174,800	179,766

対馬空港管理事務所調

平成26年の対馬空港の利用状況は、旅客利用実績は26.1万人、平成26年度の貨物輸送実績355トンとなっている。

国際航空路は、平成21年7月27日からＫＥＡ（コリアエクスプレスエア）によって、対馬～大邱（テグ）空港間において国際チャーター便として就航し、10月9日からは金浦（キンポ）空港（ソウル）に変更され、平成22年5月

7日からは金海（キメ）空港（プサン）間も追加されたが、その後金海線は平成23年11月に廃止され、金浦線は平成25年7月21日から運休している。

第10-2表　対馬空港利用状況（国際・韓国）

年（暦年）	利用者数（人）				搭乗率（%）			就航率（%）		
	計	大邱線	金浦線	金海線	大邱線	金浦線	金海線	大邱線	金浦線	金海線
平成21	668	326	342	0	41.2	32.8	－	75.9	74.4	－
22	3,414	0	2,415	999	－	42.3	34.5	－	81.1	64.9
23	3,287	0	1,279	2,008	－	53.8	45.0	－	48.9	57.7
24	2,297	0	2,297	0	－	62.2	－	－	36.6	－
25	1,852	0	1,852	0	－	59.8	－	－	76.1	－
26	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－

（注1）大邱線は平成21年7月から9月まで就航
（注2）金浦線（ソウル）は平成21年10月就航開始、平成25年7月から運休
（注3）金海線（プサン）は平成22年5月から平成23年10月まで就航

対馬空港管理事務所調

3．船舶

対馬島内航路は、道路の整備による陸上交通の発達により漸次廃止されて、現在は、対馬市営定期船が仁位（豊玉町）～樽ヶ浜（美津島町）間に1日2便就航しているのみである。

島外航路は、厳原～博多間に、フェリー「きずな」・フェリー「ちくし」が2便／日運航している。比田勝～博多間には、フェリー「げんかい」が1便／日運行している。なお、比田勝航路は、昭和54年から比田勝と小倉を結ぶ航路として利用されたが、平成10年10月より比田勝～博多航路に変更された。

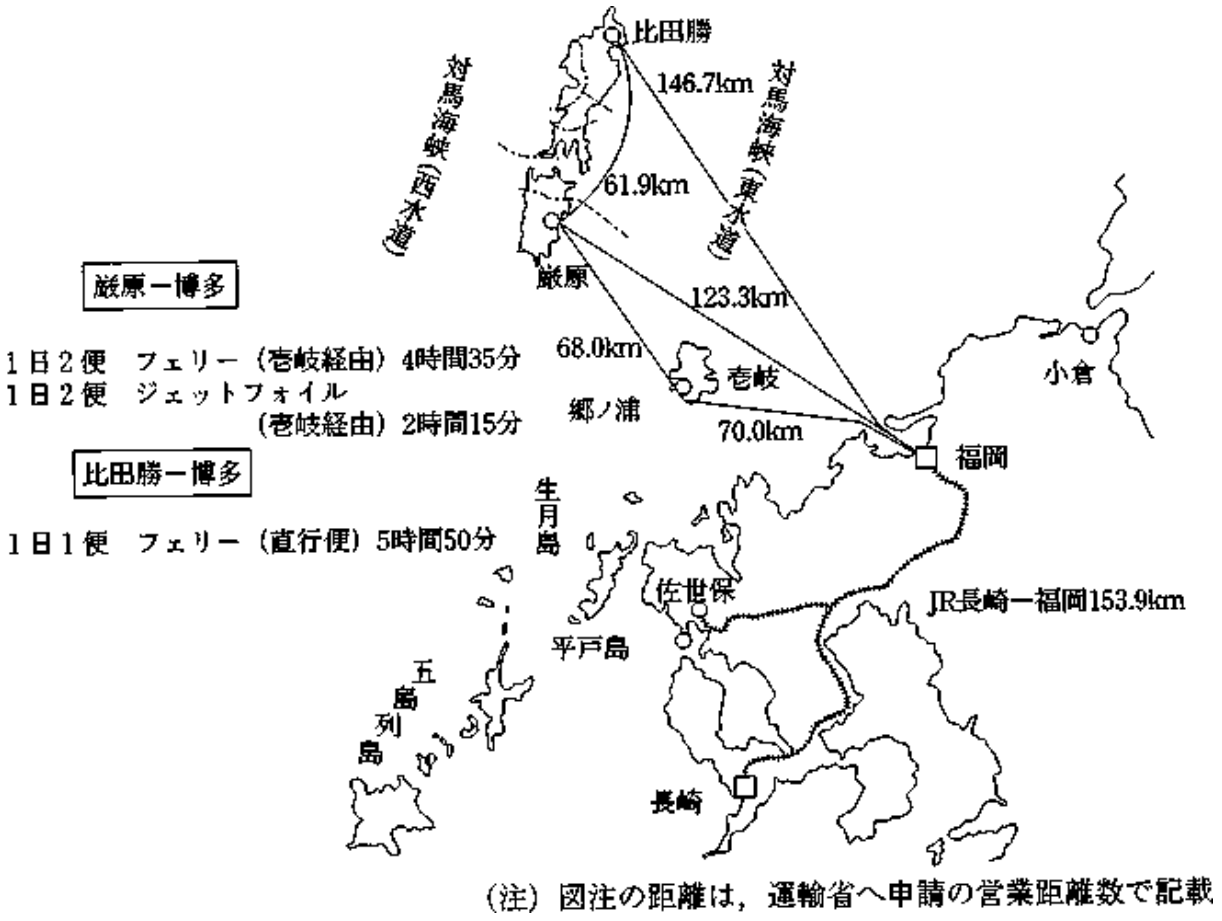
また、ジェットフォイルが厳原～博多間に就航しているが、平成12年4月より2便／日体制となっている。さらに、平成13年11月比田勝まで延伸されたことにより海上交通は以前に比べて利用しやすくなったが、利用の減少や燃料費の高騰により現在運休している。これらの航路は、九州郵船株式会社によって運航されている。

近年、運輸業界においても、規制緩和・市場原理の導入の動きが本格化している。その中で指定区間の考えが示されており、一定の条件にかなう航路は参入が可能となっている。このような中で、本島においても

新たに定期航路開設の動きも見られたが参入には至っていない。対馬島民にとって、高速・大量・安価な船舶航路は、生活基盤の充実の観点から、また観光振興など地域振興の観点からも必要不可欠であるといえる。

国際航路は、対馬（厳原・比田勝）～釜山間に、大亜高速海運の高速船「オーシャンフラワー」が定期便で就航している。また、平成 23 年 10 月から比田勝から釜山間に、ＪＲ九州のジェットフォイル「ビートル」が、平成 23 年 11 月から厳原から釜山間に未来高速「コビー」が定期便で就航している。

第 10 - 1 図　フェリー・高速船航路図



第 10 - 3 表　島外航路の船舶

	船　舶	総トン数（トン）	旅客定員（人）	積載(普自)（台）	速力（ノット）	就　航
国内航路	フェリーきずな	1,809	678	80	19	平成 24 年 4 月
	フェリーちくし	1,926	674（多客期924）	80	19	平成 6 年 4 月
	フェリーげんかい	675	202	43	14	平成 19 年 4 月
	ヴィーナス	163	263	－	約 40	平成 3 年 12 月
	ヴィーナス 2	163	259	－	約 40	平成 12 年 4 月
国際航路	ビー トル	164	200	－	45	平成 3 年 8 月
	コビー	303	200	－	45	平成 23 年 11 月
	オーシャンフラワー	445	445	－	40	平成 24 年 2 月

第 10 - 4 表　航路乗降客数

（単位：人）

年（暦年）	総数			乗客			降客		
	計	厳原港発着分	比田勝港発着分	計	厳原港発着分	比田勝港発着分	計	厳原港発着分	比田勝港発着分
平成 17	238,118	202,508	35,610	119,950	103,069	16,881	118,168	99,439	18,729
18	243,202	211,852	31,350	120,374	105,684	14,690	122,828	106,168	16,660
19	226,727	199,708	27,019	112,000	99,567	12,433	114,727	100,141	14,586
20	216,308	189,886	26,422	106,206	93,775	12,431	110,102	96,111	13,991
21	197,217	181,590	15,627	96,798	90,050	6,748	100,419	91,540	8,879
22	204,588	189,819	14,769	101,265	94,978	6,287	103,323	94,841	8,482
23	206,395	193,054	13,341	102,555	96,942	5,613	103,840	96,112	7,728
24	215,529	202,286	13,243	107,320	101,780	5,540	108,209	100,506	7,703
25	228,219	215,049	13,170	112,935	107,590	5,345	115,284	107,459	7,825
26	211,891	199,733	12,158	104,258	99,132	5,126	107,633	100,601	7,032

九州郵船調

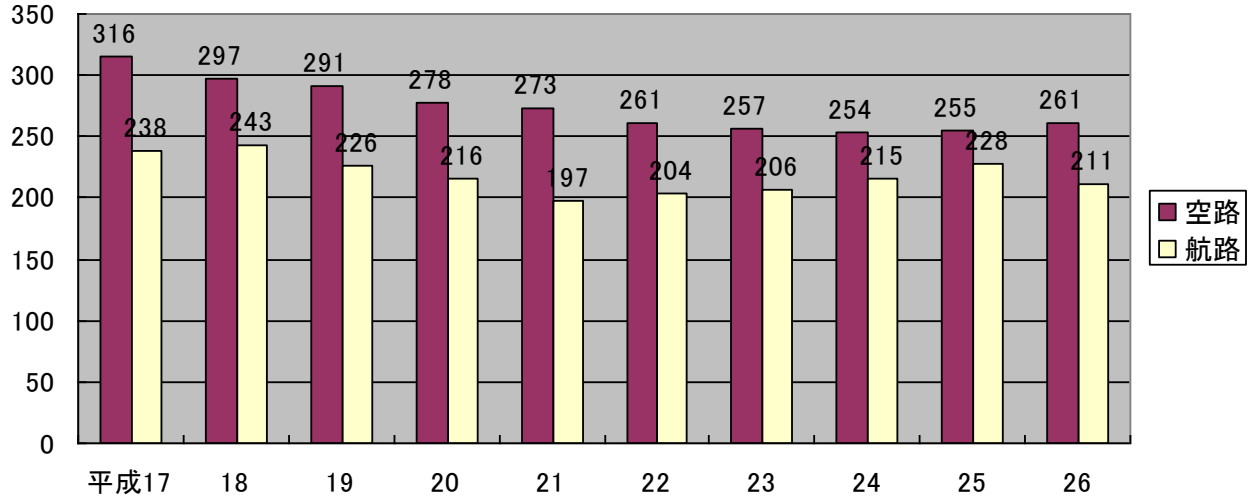
第 10 - 5 表　厳原・博多航路車両出入状況

（単位：台）

	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26
出	8,316	9,292	8,879	8,439	9,106	9,208	8,158	7,514	7,611	7,723
入	8,917	10,254	9,265	8,685	9,122	9,280	8,241	7,973	7,984	8,366
計	17,233	19,546	18,144	17,124	18,228	18,488	16,399	15,487	15,595	16,089

九州郵船調

第 10 - 2 図　海空路利用状況年度別推移



第 2 節　電気・通信

1. 電力需要供給

昭和 38 年 10 月、島内最後の無点灯集落、昼ヶ浦に電灯が点ってから約 50 年が経った現在、対馬島内で消費される電力は、九州電力株式会社により佐須奈(上県町)、横浦（豊玉町)、東里（厳原町）の 3 ヵ所の発電所から供給されている。3 発電所の総出力は 58,400ｋＷで、契約口数 31,172 口で使用される電力を賄っている。

第 10 - 6 表　電力供給施設・設備

（平 27. 3. 31）

	発電所名	所在地	面積	出力
発電所	佐須奈発電所	上県町佐須奈乙	5,100 ㎡	7,800kW
	豊玉発電所	豊玉町横浦	40,000 ㎡	42,000kW
	厳原発電所	厳原町東里	6,000 ㎡	8,600kW
供給設備	配電線亘長	947km	配電線延長	3,975km
	送電線亘長	56ｋｍ		
	支持物（電柱等）	配電線 14,250 基	送電線　225 基	

九州電力株式会社調

第10－7表　電力需要状況

（平成26年度）

種　　別	契約口数	販売電力量（千キロワットアワー）
電　　灯	28,501	79,306
電　　力	2,671	86,491
計	31,172	165,797

九州電力株式会社調

2．電信・電話

明治末期、厳原に初めて電話が開設されて以来、島内外の交通事情の不便さをカバーする手段として、官・軍用から順次整備され、現在では本土と比較しても何ら遜色のない電話網が整備されている。

また、携帯電話サービスについては、平成10年4月から各町役場周辺で利用可能となって以降、利用エリアの拡大が進められている。

3．地域情報化の現状と課題

国においては、平成13年1月の「e-Japan戦略」、平成15年7月の「e-Japan 戦略２」に引き続き、平成18年1月に「ＩＴ新改革戦略」が策定され、「いつでも、どこでも、誰でも、ＩＴの恩恵を実感できる社会の実現」に向け、各種施策が推進されている。

離島において、ＩＴは、地理的ハンデイを克服するツール（道具）として非常に有効であり、情報通信環境の整備とその利活用が重要な課題である。

対馬市では、ＣＡＴＶ事業により各家庭を光ファイバーケーブルで接続したネットワークが形成されており、これによりインターネットをはじめ、ＩＰ電話、地上デジタル放送サービスや、音声告知放送サービス等の行政サービスの充実が図られている。